

## マタイの福音書 第11章 28～30節（すべて来なさい）

来ないでください。今は来ないでください。苦渋の決断です。やがて感染症が去るその日が来たら、是非おいでください、歓迎します。大型連休前やその只中で報道され、聞いている言葉である。街道筋に看板を持ち立ち、改札口で検温をし、広報車のスピーカーから要請する。見えない感染症と向き合う人々の辛くも長い取り組みがある。お互いの命を守る必死の努力に感謝し、頭が下がる。辛い呼びかけが一日も早く終わることを願う。

その愛労を受け止めつつ、すべて来なさい、と呼び続ける主イエス・キリストがおられることを忘れない。すべてと招いている者たちはどのような状態かといえば、疲弊した者、心身ともに重苦しくなっている者、辛いめにあっている者だ。ともすれば、社会の周辺に追いやられて、誰も振り向いてくれない者たちに目を注ぎ、声をかけての招きである。いわば最後の砦となる招きである。

自治体が願う足止めは、命を大切にしている行動である。観光地が、来ないでください、と願う切実さを感じる想像力を持ちたい。そして、どこかの誰かに行かなくても、こころ疲れ、重く、傷つき痛むすべてに来なさいと招く主イエス・キリストがおられます。その声を聞きたい。